

武蔵野 EMC におけるアントレプレナーシップ教育の定着率の計測・分析

笠倉知弥^{*1}・高松宏弥^{*1}

Email: yamada_taro@cic-u.ac.jp

*1: 武蔵野大学アントレプレナーシップ学部アントレプレナーシップ学科

◎Key Words アントレプレナーシップ教育, 起業家精神, Global Entrepreneurship Monitor

1. はじめに

本研究は、現在の日本における教育機関によるアントレプレナーシップ教育がいかに施され、また、どのように定着しているのかを明らかにすることを目的とする。2021年4月には日本初のアントレプレナーシップ専門の教育機関、武蔵野大学アントレプレナーシップ学部（以下、武蔵野 EMC）が誕生するなど、日本におけるアントレプレナーシップ教育の注目具合がうかがえる。そこで本研究においては、武蔵野 EMC が目指す起業家精神を、VUCA の時代に国家の経済成長に大きく貢献できる人材と仮定し、武蔵野 EMC ではいかにして起業家精神が育まれ、定着していくのかを定量的に明らかにすることを目指す。

2. 背景と目的

2.1 本研究の背景

今日の不確実な世界では、あらかじめ決められた解決策を見つける能力よりも、新しい視点から未解決の問題を特定し、効果的な解決策を構築する能力の方が重要とされつつある。VUCA (Volatility : 変動性, Uncertainty : 不確実性, Complexity : 複雑性, Ambiguity : 曖昧性)⁽¹⁾ に代表される現在の社会状況を踏まえ、アントレプレナーシップ教育プログラムの開発が進められている。しかし現在の日本においては、大学内での体制整備や、社会全体における認知が進まないなどにより「裾野が広がらない」、指導体制の構築が進まない等による「学内のリソース不足」、他大学とのユースケースを共有するプラットフォームの欠如による「効果検証と成功事例の横展開」がなされないといったように、アントレプレナーシップ教育を施す教育機関には多くの課題が挙げられている⁽²⁾。2021年4月に誕生した武蔵野 EMC は、アドミッションポリシーを、「仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、起業家精神（アントレプレナーシップ）を抱き、既存の枠を超えて新たな価値を創造できる実践的な能力を身につけた人材を育成」と定めている⁽³⁾。つまり、武蔵野 EMC が目指す起業家精神とは、VUCA の時代に国家の経済成長に大きく貢献できる人材と捉えることができる。アントレプレナーシップ人材の育成が急がれるなか、国内の新たな教育プラットフォームを構築していくうえで、日本初のアントレプレナーシップを冠した学部である武蔵野 EMC におけるアントレプレナーシップ教育の定着率を調査することは有意義であるといえよう。

2.2 目的

個人が持つアントレプレナーシップに関する調査として代表的なグローバルアントレプレナーシップモニター (Global Entrepreneurship Monitor : GEM) では、国家の経済成長に大きく影響するのはモデル中の起業活動の部分であるとされ、「態度(Attitude)」「行動(Activity)」「意欲(Aspiration)」によって構成される⁽⁴⁾。

これまでの研究では、この指標を用いて、武蔵野 EMC の1~3年生を対象に、学習成果の定着度に関するアンケートを実施した。I'mbesideyou 社の定量分析からメンタルヘルスの状態を示すアクティブスコアの上昇が顕著な学生を20名抽出した。上昇上位群(9名)はアンケート調査の態度、行動、意欲それぞれの質問で「入学後の方が当てはまる」と回答した。一方で、上昇下位群(9名)では、同じ分類の質問に対して「入学後の方が当てはまる」と回答した層は上昇上位群と比較してやや少ないという結果になった⁽⁵⁾。したがって、メンタルヘルスの上昇と武蔵野 EMC における教育の定着度には相関関係があるといえる。このように、武蔵野 EMC に入学し、一定期間、実践的なカリキュラムを学んだ学生は、GEM に即した起業家精神の定着度を示すスコアにおいて高い結果を記録した。

しかしこの分析においては、1on1 という流動的なコミュニケーション方法で得た会話データを使用しており、会話当事者同士の個人的な関係性の影響を排除しきれない。また、測定頻度が1年間に3回と限定的であるため、定期的な追跡は行うことができていない。そのため、より短い期間において学生のメンタルヘルス状態を確認し、学生の個人活動に結びついた長期的な分析が必要である。

そこで本研究は、学生個人の活動に着目し、武蔵野 EMC におけるアントレプレナーシップ教育の定着度について、インタビュー調査から明らかにすることを目的とする。

3. 手法

3.1 I'mbesideyou 社によるメンタルヘルスコアの測定

武蔵野 EMC の2年生25名が、2023年4月と8月に実施した、教員と学生とのオンライン型1on1ミーティングを録画した動画全てを対象とした。ミーティングは ZOOM 上で録画をし、I'mbesideyou 社による AI 解析を行った。I'mbesideyou 社の AI 解析においては、録画された学生の表情の画像データから Happy, Angry, Neutral, Sad, Fear, Surprise といった感情指標を対象とした。これに音声データから「発言割合」、「発言のネガポジ」、「話速」という3つの分析項目を加えることで、メンタルヘルス指数を算出し、4月と8月のそれぞれの結果を比較した。

3.2 インタビュー調査

2024年1月27日に行われた武蔵野 EMC 主催の学生ピッチイベントである, EMC サミットでの成績優秀者 8 名を対象にインタビュー調査を行った。インタビューでは武蔵野 EMC における教育が学生の活動に対してどのような効果をもたらしたのかを調査した。EMC サミットは武蔵野 EMC の実践科目の 1 つであり, 全学生が必修となっている「プロジェクト」の授業の中で, 特に良い成績を残した学生が, 自身の活動を報告発表するためのイベントである。

4. 結論

武蔵野 EMC では, 学部 1 年時からの実践的なカリキュラム, 実務家によるメンタリング, 起業家との対話を通じて, 起業家精神を持った若い人材の育成を行っている。その経過報告として 2024 年 1 月 27 日に EMC サミットを実施した。EMC サミットには, 武蔵野 EMC のカリキュラムのうち最も実践的な科目である「プロジェクト」の成績優秀者 12 名が登壇した。

成績優秀者 12 名を Imbesideyou 社の定量分析の結果と照らし合わせると, 12 名中 7 名がメンタルヘルス的にも定着度の上位群に属していた。

また, そのうち 3 年生 2 名, 2 年生 3 名, 1 年生 3 名の計 8 名に対してインタビューを実施した。インタビューでは, 「武蔵野 EMC で学んだ事はプロジェクトを進める上で役に立っているか?」「武蔵野 EMC に入ってアントレプレナーシップが醸成されたか? またそれは EMC に起因するのか?」というように, 各講義と学生が実施する個別のプロジェクトとの関係性を調査した。

その結果, 3 年生では 100%, 2 年生では 66%, 1 年生では 33% の学生が, 武蔵野 EMC の教育に対してポジティブな回答をした。年次が上がるにつれて, 教育に対してポジティブな回答をしていることから, アントレプレナーシップ教育の定着度が高まると, 学生個人による活動の活性化がみられることがうかがえる。

5. おわりに

本研究の分析では, 8 名中 5 名の学生が, 個人の活動において武蔵野 EMC のカリキュラムは十分に効果を発揮していると回答した。しかし, 低学年においては, その効果の実感 50% ほど低い結果となった。この理由を明らかにするためにも, インタビューの回答内容のさらなる分析を進める必要がある。

一方で, 高学年においては, メンタルヘルスが高いポイントを記録していたことに加えて, インタビューにおいても, 講義を受けたことにより, 個人活動を進めていく中で成長を実感できたという回答が多くみられた。このことから, 年次が進み, 個人活動がより実践的になるほど, アントレプレナーシップ教育の効果がより顕著に現れることがうかがえる。今後も継続して個人に着目した調査を実施することが必要である。

参考文献

- (1) 赤尾嘉治: “VUCA 時代と Entrepreneurship に関する課題の考察”, 経営情報学会 全国研究発表大会要旨集, 202211,

pp.279-282 (2023).

- (2) 経済産業省: “起業家精神に関する調査”, https://www.meti.go.jp/policy/newbusiness/main_01/press001/GSE2019_1.pdf (2020) (2024 年 6 月 30 日参照).
- (3) 武蔵野大学: “アントレプレナーシップ学部 学部ポリシー”, <https://www.musashino-u.ac.jp/academics/faculty/entrepreneurship/entrepreneurship/policy.html> (2024) (2024 年 6 月 30 日参照).
- (4) 文部科学省: “アントレプレナーシップ人材の裾野拡大に向けたプラットフォーム形成に係る調査分析報告書”, https://www.mext.go.jp/content/20220707-mxt_sanchi01-000023882_0.pdf (2021) (2024 年 6 月 30 日参照).
- (5) Tomoya Kasakura, Hiroya Takamatsu: “Evaluating the Effects of Entrepreneurship Education at Faculty of Entrepreneurship at Musashino University: Musashino EMC – A Video Analysis Using AI”, The 16th Asian Conference on Education (2023) .